

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和6年1月25日

事業所名: おりーぶせらぴー

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指定申請の条件は満たしており、法令に基づいて十分なスペースを確保している。	はい(11) 体を動かす場所、学習する場所が分かれていて 気持ちの切り替えが出来て良い	せらぴーの教室の形や構造を生かして、学習や訓練に支障がないように、活動内容によってスペースを分けるなどの工夫をしている。
	2 職員の適切な配置	言語聴覚士や理学療法士、音楽療法士、教諭、保育士など、専門知識のある者が指導員として知識を生かして支援にあっている。	はい(11)	今後も継続して、普段の活動の中で、専門性の高い指導や訓練が実施出来るように職員を配置していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	クッション性のあるフロアマットを床に敷き、バリアフリーにしている。転倒の危険性を考慮して、机や壁や家具の角にはコーナーガードをつけている。	はい(11)	今後も継続して、子ども達が安全に過ごせるように環境を整えていく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	テーブルや椅子など日頃よく触れる所は毎日アルコール消毒を行っている。空気清浄機を設置し、手洗いの後にはペーパータオルを使用している。	はい(11)	今後も継続して、衛生管理に努め、清潔で心地よく過ごせる生活空間を確保していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員会議などで随時意見交換の場を設け、業務改善に努めている。		今後も継続して、職員会議などを通して目標設定や振り返り等を行い、業務改善に努めていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	今のところ内部評価にとどまっている。		今後は、状況を見て、第三者による外部評価についても検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	事業所内で定期的にカンファレンスや研修会を実施しており、外部によるオンライン研修にも積極的に参加している。		今後も継続して、定期的な職員研修の実施や、外部研修受講の推奨など、職員の資質向上に努めていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントシートを作成し、職員間で共有したうえでニーズや課題を会議で分析し、明確にして個別支援計画を作成している。		今後も継続して、子どもと保護者のニーズや課題を確認、分析したうえで、計画を作成していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	発達状況に合わせて個別に学習・訓練を行ったり、小グループでの活動、或は全体での活動の中で学ぶ機会を得られるように計画を立てている。	はい(11)	今後も継続して、子どもの個々の発達状況に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせ、適切に計画の作成を行っていく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	子どもひとりひとりの課題と目標そして支援に必要な項目を設定し、個々の状況に合わせた具体的な支援内容を記載している。		今後も継続して、子どもひとりひとりの課題と目標そして支援に必要な項目を設定し、具体的な支援内容を支援計画に記載していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供 （続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画に沿って、子ども達ひとりひとりに、今必要な支援を行っている。	はい(11)	今後も継続して、子ども達ひとりひとりに必要な支援が適切に行われるように個別支援計画を作成していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	専門職による専門性の高いプログラムを取り入れたり、職員それぞれの得意分野を生かして、子供たちが皆楽しく参加できるようなバラエティに富んだ活動内容を立案している。	はい(11) いつもイベントを楽しみにしている。	今後も継続して、職員の意見を取り入れ、職員の得意分野を生かしてチームでより良い支援が出来るよう、プログラムの作成をしていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は主に個別の学習や作業を中心に活動を行い、休日・長期休みでは、個別活動に加えて時間をかけて取り組むものや各イベントなどでの集団活動も充実させている。		今後も継続して、利用時間や子ども達の状況に応じたきめ細やかな支援を行っていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	豆まきや夏祭り・ハロウィンやクリスマスなど、子ども達が大好きな季節のイベントに加え、専門職による音楽療法や運動イベント、或は調理実習や創作活動、農作物の収穫体験など、多岐にわたる分野の活動プログラムを実施している。		今後も継続して、バラエティー豊かなより良い活動プログラムを作成していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	開始前に職員がホワイトボードでその日の送迎や担当者、支援内容や必要事項などが確認できるようにしている。		今後も継続して、個々の子どもの状況や必要事項など職員間で情報共有し、支援の質の向上を図っていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	注意事項やその日気付いた点など、日誌に記録し、必要なら口頭での申し送り、またはメモや文書などで職員間で情報を共有するようにしている。		今後も継続して、その日の振り返りを行い、支援での気づきなど情報を共有し、支援の質の向上を図っていく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	その日支援した職員が正確に日誌に記録を残しており、次の支援に繋げている。		今後も継続して、日々の記録を正確に記録し、支援の質の向上を図っていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	約半年に1回、保護者と直接会って話す時間を設け、モニタリングを行い、個別支援計画作成会議において職員で検討したうえで計画の見直しを行っている。		今後も継続して、定期的にモニタリングを実施して個々の状況に合わせて支援計画を見直し、より良い支援に繋げていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	一人一人の子どもの状況を把握している児発管が担当者会議に参画している。		今後も継続して、子どもの状況を把握している者がサービス担当者会議へ参画していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在、該当する利用者がいない。		今後、必要であれば、関係機関と連携を図っていく。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在、該当する利用者がいない。		今後、必要であれば、医療機関と連携を図っていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	今年度は4月に新1年生を迎えるにあたり、円滑な移行支援のため、事前に保育園を訪問して情報共有を行った。各学校については必要があれば学校送迎時に支援内容等の情報共有を行っている。		今後も必要に応じて、関係機関と連携して情報を共有し、より良い支援に繋げていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	昨年度末に卒業生の円滑な移行支援のため、各障害福祉サービス事業所に対して、放デイでの支援内容等の出来る限りの情報提供を行っている。		今後も必要に応じて、関係機関と連携して情報を共有し、より良い支援に繋げていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	毎年職員が受講している。専門機関が開催するオンライン研修には積極的に参加を促し、職員のスキルアップに努めている。		今後も継続して、専門機関と連携を取り、職員の専門性を高めるための研修の機会を作っていく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	各学校でインフルエンザ等の感染症がたびたび猛威を振るっており、今年度は、企画は立てていたもののなかなか交流に踏み出せずに終わってしまっている。	はい(4)・どちらともいえない(2) いいえ(3)・わからない(2)	今後、感染症の恐れが少ない時期を見て、交流の機会を作って行きたい。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	同グループのB型作業所の主催するお祭りやイベントに参加し、短時間ではあるが地域の住民の方々との交流を行っている。	コロナやインフルエンザ等の事情で難しいと思う。	今後も定期的に、同グループ主催のイベントに、地域住民の方々と一緒に参加するなど、交流の機会を作っていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時において説明している。その後も必要に応じて説明を行っている。	はい(11)	今後も必要に応じて支援の内容や利用者負担など、丁寧に説明を行っていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	個別支援計画書作成時には、児発管より支援内容の説明を行っている。	はい(11)	今後も必要に応じて、丁寧に個別支援計画の説明を行っていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングの機会を設けるまでには至っていないが、日々の支援の中で今の状況を共有し必要な関わりを提案している。	はい(8)・どちらともいえない(2) わからない(1)	保護者の質問に答えられるように、職員も日々研鑽を重ね、支援の向上と保護者への対応力の向上を図っていく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に口頭で、または連絡帳にて日々の様子や、成長の様子などを丁寧に伝えるようにしている。電話でも対応している。	はい(11) 連絡帳でも、送り迎えの時も、子どもの様子など細かく伝えてくれる。	今後も継続して保護者との連絡を密に取るように心掛け、共通理解を徹底していく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時にいつも支援している指導員が対応したり、児発管が保護者と面談をする、または電話などで相談に応じている。	はい(11)	日頃から保護者とのコミュニケーションを取るよう心掛け、今後も相談しやすい環境を整えていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者を対象に音楽イベント上映会を行った。特に交流の時間は設けてはいなかったが、保護者同士で挨拶を交わされている姿が見られた。	はい(5)・どちらともいえない(2) いいえ(1)・わからない(3)	今後も親子の集いなどを企画し、保護者同士の交流の機会が持てるよう環境を整えていく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	すぐに児発管が、苦情解決責任者として、家庭訪問や電話連絡で迅速に対応している。	はい(9)・わからない(2)	今後も継続して迅速な対応に努めていく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	送迎時に直接保護者へ口頭にて連絡、または連絡帳にて連絡している。	はい(11)	今後も継続して、保護者との連絡を密に取り、分かりやすい伝え方を心掛けていく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	SNSでのブログや動画の発信に加え、イベント案内やせらびーだよりを発行し、活動の様子や、イベントなどの情報を発信している。	はい(11) お便りや動画で、たくさん発信されていると思う	今後も継続して分かりやすく情報を発信していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	SNSでの動画や写真を発信する時は、画像を加工するなどして個人が特定されないように細心の注意を払っている。	はい(9)・わからない(1)	今後も継続して、個人情報の取り扱いには細心の注意を払っていき保護者との信頼関係を維持していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	安全対策、感染症予防、防犯などの各マニュアルを1本化し、今年から「安全対策の指針」としてまとめている。保護者にもお便りにてお知らせしており、来所の際にいつでも手に取って見て頂くことが出来るようにしている。	はい(11)	今後も継続して、周知を行っていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回の地震や火災想定での避難訓練の他に、水防法に基づいた避難確保計画に沿っての洪水想定での避難訓練を実施。実際に避難場所となる県立阪神昆陽高校まで徒歩で避難する訓練やBCP業務継続計画を策定し周知と研修も行っている。	はい(11)	今後も継続して、いろいろな非常災害を想定して避難訓練を実施していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	法人として虐待防止委員会を設置し、今年度はオンラインでの委員会会議開催となった。年間研修計画に基づいて、定期的に職員研修を実施しており、職員への周知に努めている。		今後も継続して、虐待防止委員会会議を開催し、年間研修計画に基づき虐待防止研修の機会を計画的に確保していく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	開所以来、身体拘束をするに至っていないが、身体拘束適正化委員会を設置し、必要な場合を想定して、マニュアルや書類様式を作成、年間研修計画に基づいて定期的に研修を実施して職員の周知に努めている。		今後も継続して、身体拘束を行う必要が無いよう支援方法の研鑽を重ねていくと同時に、将来的にやむを得ず身体拘束が必要になった場合の対応について学んでいく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時に保護者に、サポートブックに必ず食物アレルギー等の注意事項を記入していただき、職員にも周知してアレルギーに触れないように細心の注意を払っている。		今後も継続して、食物アレルギーのある子ども達がアレルギーに触れる事の無いよう細心の注意を払い、安全に過ごせるようにしていく。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット報告書をすぐに作成し、事業所内で回覧し、職員間で情報共有して再発防止に努めている。		今後も継続して、ヒヤリハット報告書を職員間で共有し、子ども達が、そして職員が安心安全に過ごせるように、細心の注意払っていく。